

令和5年度

第56回 大分県公立学校教頭会研究大会

白杵大会

研究録56

令和5年8月9日



大分県公立学校教頭会

第56回 白杵大会「研究録56」の発刊に寄せて

大分県公立学校教頭会

会長 石田 秀二

今年5月、新型コロナウイルス感染症が2類から5類へと引き下げられました。教育活動も制限されることなく、マスクの着脱も個人の意思に任せられることになり学校に日常が戻ってきました。その中で大分県公立学校教頭会、白杵市教頭会ともに、4年ぶりの参集型の研究大会を開催できる喜びを感じつつ、準備を行っていました。特に白杵市教頭会は 大分県下から参集する教頭先生方を、食でもてなそうということで工夫をこらした準備を行っていました。

第56回大分県公立学校教頭会研究大会白杵大会は<自立・協働・創造>をキーワードとする第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の1年次として、記念講演と10分科会において5課題各2本の提言がなされ学習を深める予定でした。しかし、開催を2日後に控えた8月7日、台風16号の九州縦断が決定的となった段階で、白杵大会の中止を決定させていただきました。

準備をしていただいた白杵市教頭会、講演をしてくださることになっていた神田岳委先生、激務の中会員のために貴重なレポートを作成していただいた提言者の先生方のご苦勞に報いるためにどうすればよいかと考えました。ご無理を言いましたが、神田先生には講演の動画をYouTubeで流すことを了承していただきました。分科会はレポート発表の形式をとらせていただき、アンケートで提言者へお返しすることにしました。

記念講演では、『どうぶつと共に生きる』の演題で九州自然動物園アフリカンサファリの神田

岳委先生にお話をいただきました。神田先生が管理職になり職員に認められるまでの苦勞や努力、人材育成のヒントを教えてくださいました。教育は、『教』えるだけではなく、教え『育む』ことであるということから、『育(はぐくむ)』ということの大切さを学びました。また、子どもたちにどう向き合えばよいか、どう理解すればいいかを、動物の話に置き換えて教えてください、大変勉強になりました。

分科会では、提言者も参加者も、『顔を合わせて意見の交換ができずに残念』という意見が多く、研究会に対する会員の意欲が見られました。また、『実践を通しての提言であり、教頭としてどのような意識・思いで、どうあればよいか、何をすればよいかを考えさせられる提言だった』という意見が多くありました。

急な変更にもかかわらず、この研究大会を基盤として皆様方より貴重な意見をいただき、継続性・協働性・関与性のある確かな実践をまとめ、ここに研究録を発刊できますことを 大変うれしく思います。

最後になりましたが、本大会開催にあたりご尽力いただいた白杵市・白杵市教育委員会の皆様ならびに御後援等を賜りました関係諸機関・諸団体の皆様に深く感謝申し上げます。「研究録56」の発刊の挨拶といたします。

目 次

1	研究主題と日程	1
2	第56回大分県公立学校教頭会研究大会白杵大会 分科会各担当一覧	2
3	記念講演 「どうぶつと共に生きる」 九州自然動物公園 九州アフリカ・ライオン・サファリ株式会社 取締役園長・獣医師 神田 岳 委 氏	4
4	提 言	

■■■ 教育課程に関する課題 ■■■

【第1A分科会】	14～15
----------	-------

子どもも地域も学校も活きる教育活動の実現のために
～実効的で持続可能な教育課程の編成運用を通して～
国東市立国東小学校 友 成 恒 二

弥生地区のコミュニティースクールの推進について
～社会に開かれた教育課程を推進するために～
佐伯市立昭和中学校 向 暁 和 博

【第1B分科会】	
----------	--

米水津地区学社連携の推進
～地域とともに創る複式学級導入に向けた教育課程の編成を目指して～
佐伯市立米水津小学校 菅 秀 一 16～17

「育成を目指す資質・能力」の向上に向けた教育課程の工夫・改善
～教頭として、どのように組織的な授業改善を支援するか～
別府市立朝日中学校 千 葉 優 子

■■■ 子どもの発達に関する課題 ■■■

【第2A分科会】	18～19
----------	-------

子どもたちの学びを保障するために
～学校体制づくりと関係機関と連携した子どもと家庭への支援の試み～
大分市立こうぎき小学校（神崎小中学校） 野 中 尊 立

主体的に未来を切り開く子どもの育成
～小中一貫教育の推進における取組を通して～
豊後大野市立犬飼中学校 小 坂 敏 之

【第2B分科会】

20～21

- 特別な配慮を必要とする児童への組織的な取組と幼保こ小の連携について
竹田市立直入中学校 阿南正樹
- 支援を要する生徒・保護者の願いに沿った、自立支援の取組と教頭としての役割について
～不登校傾向の生徒と保護者、学校、専門家や関係機関との連携を通して～
大分市立東陽中学校 中森栄児

■■■ 教育環境整備に関する課題 ■■■

【第3A分科会】

22～23

- G I G A スクール構想における環境整備及び体制づくり
～ I C T 教育推進の取組について～
中津市立深水小学校 木下雅文
- 子どもと向き合う時間確保のため教頭として学校の教育環境整備にどう取り組むか
宇佐市立北部中学校 宇都宮 忠

【第3B分科会】

24～25

- 小規模特認校としての特色ある教育活動のあり方について
～「一人一人が主役の学校」子ども・保護者が選択してよかったと思える学校に～
由布市立石城小学校 田邊英一郎
- 児童の思いを受け止め、楽しく安心して過ごせる学校であるために
～教職員が児童と向き合う時間の確保と、チームとしての組織的な対応～
日出町立川崎小学校 北崎亜希子

■■■ 組織・運営に関する課題 ■■■

【第4A分科会】

26～27

- 目標達成のための組織マネジメントの取組について
～人材育成、働き方改革の両輪を通して～
臼杵市立福良ヶ丘小学校 板井達彦
- 「円滑な学校運営のための I C T 活用」
～学校運営の効率化と働き方改革を目指して～
日田市立三隈中学校 郡山治久

【第4B分科会】

28～29

- 地域との連携における教頭の役割
～「自然環境を生かした学習」を通じた地域との持続可能な連携をめざす組織づくり～
日田市立高瀬小学校 高島哲史
- 支援を要する児童・生徒への組織的な取組について
大分市立大分西中学校 戸上 忠

【第5A分科会】 30～31

より豊かな教育の推進に向け組織的取組をどのように進めるか
～校内研修を核にしたOJT「レベルアップ講座」で、教員の資質・能力を向上～
大分市立津留小学校 坂本 浩二

教職員の資質・能力の向上を図るために組織としていかに取り組むか
前豊後高田市立都甲中学校 佐伯 修

【第5B分科会】 32～33

教職員の専門性って何か
～教職員としてのやりがい、働き甲斐を実感できる職場づくりを目指した教頭の関わり方～
宇佐市立院内北部小学校 矢野 健

教職員の、資質・能力の向上を図るための組織的な取組について
大分市立判田中学校 内山 靖彦

研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

キーワード 〈自立・協働・創造〉

趣 旨 全国及び九州地区公立学校教頭会共通の第13期研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」 キーワード〈自立・協働・創造〉を受け、本県における教育課題とのかかわりの中で、変革期の教育のあり方やそれを創造する教頭のあり方を究明し、教育課題解決への最善の方途を探求する。

台風接近のため、白桦大会の持ち方を次のように変更して行いました

(1) 分科会提言は、「誌上発表」にしました。

① 6月27日（火）の「提言者・司会者・運営委員・協力者打合せ会」で、提言原稿を仕上げました。

② 提言原稿をまとめて、「大会要項」を作成しました。

③ 大会要項は、研究部長へ送付しました。

(2) 9月7日（木）の事務局会で、神田岳委氏に記念講演をしてもらい、その様子を録画し、9月27日（水）から10月15日（日）まで、ユーチューブ上で会員限定で公開しました。

(3) 「研究録56」を作成して、2月上旬に各郡市の研究部長へ送付しました。

研究録56の内容は、「分科会提言についての感想」及び「記念講演の要旨、講演を視聴した感想」を掲載しました。

大分県公立学校教頭会会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第56回大分県公立学校教頭会研究大会白杵大会 分科会担当一覧

課題	分科会	研究主題	種別	提 言 者			司 会 者	
				郡 市	学 校	氏 名	学 校	氏 名
1	A	教育課程に関する課題	小	くにさき地区	国 東 小	友 成 恒 二	安岐中央小	徳 丸 将
			中	佐 伯 市	昭 和 中	向 暁 和 博	直 川 中	富 高 長 寛
	B		小	佐 伯 市	米 水 津 小	菅 秀 一	佐伯東小	石 井 康 孝
			中	別 府 市	朝 日 中	千 葉 優 子	別府西中	神 崎 浩 一
2	A	子どもの発達に関する課題	小	大 分 市	こうざき小	野 中 尊 立	坂ノ市小	山 下 寛 明
			中	豊後大野市	犬 飼 中	小 坂 敏 之	朝地小中	阿 孫 裕 司
	B		小	竹 田 市	直 入 中	阿 南 正 樹	祖 峰 小	佐 藤 博 美
			中	大 分 市	東 陽 中	中 森 栄 児	滝 尾 中	後 藤 栄 二
3	A	教育環境整備に関する課題	中	中 津 市	深 水 小	木 下 雅 文	三 保 小	七 森 智 史
			小	宇 佐 市	北 部 中	宇 都 宮 忠	駅 川 中	児 島 誠 一 郎
	B		小	由 布 市	石 城 小	田 邊 英 一 郎	阿 南 小	和 田 巧
			小	速 見 郡	川 崎 小	北 崎 重 希 子	大 神 中	阿 部 尚 史
4	A	組織・運営に関する課題	小	白 杵 市	福良ヶ丘小	板 井 達 彦	白杵南小	中 川 か お り
			中	玖 珠 郡	三 隈 中	郡 山 治 久	くす星翔中	後 藤 誠 一
	B		小	日 田 市	高 瀬 小	高 島 哲 史	若 宮 小	矢 野 治 郎
			中	大 分 市	大分西中	戸 上 忠	植田東中	池 田 好 之
5	A	教職員の専門性に関する課題	小	大 分 市	津 留 小	坂 本 浩 二	東大分小	丹 生 悦 雄
			中	豊後高田市	田 染 小	佐 伯 修	真 玉 中	土 谷 幸 生
	B		小	宇 佐 市	院内北部小	矢 野 健	高 家 小	杉 木 文 武
			中	大 分 市	判 田 中	内 山 靖 彦	神 崎 中	後 藤 栄 道

研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」
 キーワード 〈 自立・協働・創造 〉

記 録 者		指 導 助 言 者		運 営 委 員 ・ 協 力 者		参 加 数	分 科 会 場
学 校	氏 名	所 属	職・氏 名	学 校	氏 名		
安岐小	和田浩一	国東小	校長	堅徳小	山本宏	24	更衣室
本匠小	野々下徹		糸永敏明	松岡小	石田秀二		
鶴見中	五十川芳香	鶴見台中	校長	白杵小	木村公治	23	2の1
大平山小	稗田雅子		河野理	東中	山上裕二		
野津原小	佐藤賢次	久住小	校長	海辺小	吉良邦雄	26	2の2
大野中	高知穂みどり		平山達也	津江小	椋本繁男		
南部小	猪股良継	千歳中	校長	下ノ江小	足立和寛	24	国語科教室
城東中	泥谷裕治		中条美加	明治北小	岩尾健太郎		
秣小	花畑克典	宇佐中	校長	上北小	伊東鉄也	24	3の1
西部中	尾形義和		江口善宣	神崎小	志賀良史		
川西小	衛藤慎司	由布川小	校長	佐志生小	小野智嗣	25	3の2
藤原小	宇津宮美有紀		森次晃	大在西小	橋本宜子		
野津小	後藤啓子	竹中中	校長	下北小	上山智之	24	1の1
南山田小	後藤恵子		田崎公治	明治小	中原健雄		
大明小	山本華代	光岡小	校長	川登小	長賢司	26	1の2
鶴崎中	坪根恭平		江田友樹	大東中	矢部勝徳		
明野西小	陽哲也	高田中	校長	西中	足立政毅	24	美術室
田染中	北迫美和		小川匡	桃園小	堀芳郎		
横山小	衛藤紀子	津房小	校長	野津中	谷口俊彦	25	音楽室
佐賀関中	須藤健二		佐藤勝	碩田学園	伊東貴文		

記念講演

演題

『どうぶつと共に生きる』



講師 かん だ いわ い 神 田 岳 委 氏

大分県臼杵市 昭和44年生まれ 53歳

プロフィール

大分県立臼杵高校を卒業後、東京にある日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）に入学。平成6年に獣医師となり、九州自然動物公園アフリカンサファリに入社。現在に至る。

- ・現在アフリカンサファリ取締役園長 獣医師
- ・大分県獣医師会 学校飼育動物担当
- ・著書 『サバンナに生きる』 大分合同新聞社
- ・OBS ラジオ 『アニマルチューン』 出演中
- ・TOS テレビ 『ゆうわくワイド』 出演中
- ・臼杵市教育委員会 教育長職務代理者
- ・大分合同新聞 『獣医さんの観察記』 連載中
- ・写真集 『もふもふ日誌』 リブレ出版
- ・OBS テレビ 『かぼすタイム』 出演中

「どうぶつと共に生きる」

九州自然動物公園 九州アフリカ・ライオン・サファリ株式会社
取締役園長・獣医師 神田岳委氏

アフリカンサファリには、今、70種類ぐらい1400頭の動物がいます。コロナ禍の3年間は大変でした。リモートワークはできませんので、スタッフはみんな来て、餌やりや糞の片づけをしていました。私は園長になって3年目です。経営のトップは社長で、私がいて社員がいるわけで、教頭先生と同じきつい立場です。私たち獣医師は、人間の医師より多くの種類の動物を診ますので、ある意味勉強は大変でした。

今年の3月に象の赤ちゃんが生まれました。九州地区では80年間に3頭しか生まれていませんが、そのうちの2頭はサファリで生まれました。象の妊娠期間は660日くらいです。うちの子は690日目に生まれました。動物のオスとメスがいれば赤ちゃんができると思うかもしれませんが、そうではないんです。相性があるんです。マッチングさせるのが私たちの仕事ですが、お互い選ぶ合うのです。選ぶ権利があるのは、哺乳類の中で9割のメスだけです。オスには選ぶ権利はありません。オスのほうが数が多いからです。メスは妊娠中や子育て中は恋愛できないが、オスはずっとOKなので、自然環境ではメスの絶対数が減る時期がきます。だから、メスに選ばれるようにとオスはたてがみを大きくしたり、鳴き声をよくしたり、角を立派にしたりと進化をしてきたのです。日本の中で赤ちゃんをつくれる実績のある象は数えるほどしかいませんが、そのうち3頭がサファリの象です。象の交尾は命がけです。3トンぐらいのメスに5トンのオスが乗って交尾をするということは、1歩間違えばメスの後ろ側の脚が脱臼したり、骨折したりするんです。象を仲良くさせるには、食という共有感が大事です。お互いはじめはちょっと離れた位置で同じ時間に餌をあげ、どんどん距離を近づけていき、1個の餌箱から食べるようになったら仲良くなっています。今回それで恋が芽生えて出産に至ったのです。1番うれしい瞬間は、赤ちゃんが生まれる時ですが、マッチングなどいろいろ苦労して生まれるとさらにうれしいです。

サファリの動物は、年間100頭ぐらいが生まれ、100頭ぐらいが死にます。死んだ動物は私が解剖して火葬します。そのような繰り返しです。コロナで入園者が少なくなりましたが、ここ何か月は落ち着きました。入園者もコロナ禍前の9割ぐらいになりましたので、経営的には安定してやっています。ただ、獣医がたりません。大分県でも22名ぐらい募集して4名応募、1名採用といった状態です。実際に獣医の職は広く、精肉加工会社、化粧品会社などにもいます。大分県に足りない獣医師を増やすために教頭先生方をお願いですが、子どもたちにぜひ獣医になるように勧めてください。

私はサファリに28年間勤務しています。白杵市の出身で、父は地方公務員、母は保育士です。別に獣医や動物関係の家系ではなく、動物好きがそのまま獣医になった感じです。私はヘビが好きで子どもの頃、アオダイショウを首に巻いたりポケットに入れたりして持って帰り、祖母に怒られていました。へびは、鳴かないし、汗をかかないし、1カ月ぐらい餌を食べなくても平気で可愛いんです。冬は温度調整とかちょっと困りますが、こんな良い動物はいないですよ。子どものころアオダイショウを捕まえ首に巻いていた時、大きいアオダイショウが私の首をギュッと絞めてきたんです。その時は苦しいとは思わなくて、僕はこの子のことが好きなのに、この子は何で首を絞めてくるのだろうと思っていた記憶があります。そのくらい好きなので、いつかサファリにヘビ園を作り、大分県内外の人に知ってほしいと思っています。

小学校4年生の時、家で飼っていた犬が死にかけました。その時、近くの獣医が往診に来て助けてくれました。それを見てこんな仕事に就きたいと思いました。私の名前の由来ですが、「岳」は「いわ」とよみ、山岳の岳なので自然という意味でしょうか、「委」は委員会の委で「委ねる」と意味です。「自然に委ねる子になれよ」ということになるのでしょうか。ヘビが好き、動物が好き、自分の犬を助けてくれた獣医のこともあり、獣医になりたいと思いながら地元の白杵高校に行きました。

高校3年の時に、獣医になりたいと担任に言ったら反対されたので、1年の時の担任に相談したら、3年の担任に言ってくれて無事大学を受けて合格し、今獣医をしています。

サファリの動物は多いので、私にはどの子の調子が良いのか悪いのか分かりません。面倒を見ている子は何となく分かるのですが、その他はわかりません。元々野生動物は、痛いとか苦しいとかは隠しながら生活します。隠さないと野生では生きていけません。その小さな違いに気付くのは現場の飼育係です。各飼育係はすべての動物に名前を付けて日々管理しています。（飼育係から）「何々ちゃんが悪いので来てくれ。」と無線や携帯電話が鳴るので、ぱっと見ではどこが悪いか分かりません。それで飼育係に、食事、便、汗などの具合を聞いて、私が治療や検査の方針をたてます。動物はぎりぎりまで我慢しているので、その対応や飼育係の申告が遅くなると、それだけで命を削っていきます。

私は入社した当初は、「神田君」と呼ばれていました。先輩獣医師は「先生」と呼ばれていました。「私も免許を持っているのに」と思っていたら、ある飼育係から「ここは職人の世界や。俺ら職人が認めたら、だんだん先生と呼ばれるようになる。だから君も頑張らないかんよ。そこでやっちゃいけないことが2つある。1つは動物に怪我をさせない、もう1つは動物を逃がす。これを1度でもしたら先生と呼ばれることはない。」と言われました。これは、動物ごとの距離感、危険な範囲がわかり、油断しなければ怪我をさせられることはないでしょうという戒めの言葉。もう一つは、動物管理の一番大事な施錠ということですよ。

また、「神田君、動物は1頭1頭全部違う。だから獣医の仕事の前に少し飼育をした方が良い

よ」を言われました。それで飼育も経験しました。例えば象の糞は、スコップで取って軽トラにのせます。やわらかいのでバシャっとなります。作業後は、家で酢豚を食べていても象の臭いがするくらい臭いです。ある日、飼育係のおじさんから掃除中に「今日のお前の仕事は何？」と聞かれたので、「象の糞を取ることです。」と言うと、「それは違うな。それは作業だ。仕事は、糞を取る瞬間に、昨日より柔らかいか、虫は付いていないか、未消化はないかなど、いろんな健康状態を見ながらする事だ。」と言われ、そこから私のスタンスが変わりました。それからだんだん「先生」と呼んでくれるようになりました。

スタッフには、自分の父親ぐらいの人もいますし、若い人もいます。その人たちに教えられることが多いし、いろいろ意見を聞いて実行することも多いです。

ある日、シマウマの飼育係から「顔色の悪い子がいるから来てくれ。」と無線がありましたので行きました。飼育係の言う「顔色が悪い」というのは「いつもと様子がちがう」ということです。私は検査し治療をするのですが、急いでやらないと動物は命を削っていきます。私が焦ったり怒ったりすると、みんながピリッとするので、心臓が止まり死ぬかも、出血が止まらないかもと思ってニコニコするように意識して治療をしています。

緊急な無線や携帯電話はいつかかってくるかわかりません。休みの日に携帯がなるとどきっとします。24時間体制で対応しています。楽しくもあり大変ですけど、動物の命優先です。また獣医として仕事をする以前に、飼育係との関係を1番大事にしています。なぜなら自分1人では何もできないからです。

例えば動物を捕まえるにも獣医1人ではできません。ある日、鹿が骨折していたので、飼育係と一緒に行きました。麻酔銃だと怪我をさせてしまうかもしれない、吹き矢は刺さらないかもしれないということで、ロープを掛け、最後は襲い掛かって倒そうとしました。しかし怪我をしてもシカは強く暴れるので、飼育係と一緒におさえるのは大変でした。私は整形外科は苦手ですが、麻酔をして、足が折れていたなので、ピンをはめ縫って、軽いギブスを巻いて治すという手術をしました。その日はすごく上手いき、「今までの獣医さんで1番骨折の治療がうまい」と言われました。ただ、体がすごく痛むので、「あれ？この痛みは」と思いましたが、「動物に怪我をさせられることは恥ずかしい」が頭に浮かびました。やっと先生と呼び始めてくれたのに、また神田君に戻るの嫌ということで、「大丈夫」と言い、運転して帰ろうとしたら痛いので、帰って整形外科に行ってレントゲンを撮ったら、骨が2本折れていまして、コルセットをして、1週間は安静にしてくださいといわれました。

次の日、出勤したら、飼育係のおじさんから「神田先生、今あんたの話をしよったんよ。手術がうまかったなあ。こうやってみたら神田先生はちゃんとしちゃんな」と言われました。そのおじさん達も今は辞めた人もいますが、若いスタッフが入ってきましたので、今はその人たちを育てる立場になっています。

私は54歳ですが、若い感覚のつもりでいます。しかし、自分の勘違いかもしれないので、オリジナル商品のクリアファイルを作る企画会議に若い男女6人を参画させ、若い感覚で作ればいいと言ったんです。結局、私に気を使って私の意見を踏襲して作ってくれました。その中に飼育係ですごく私に意見をバンバン言う人がいました。この子はおもしろいなと思い商品開発の会議にいれました。すると「これ全然もう若者の感覚じゃないです」って、言いたいことをいうのです。そのスタッフが「マスキングテープを作りたい。今、若い子達で流行っています。」と言うのです。「マスキングテープ?」と思った私はあまり納得していませんでした。その若い意見を尊重し今年の7月に販売を開始しました。それがすごく売れるのです。結果的に企画会議での私の発言権ゼロになり、「神田さん、これ作ろうと思うけどお金ありますか?」くらいの感覚です。今は、そういう商品開発について、若い子の意見もおじさん達の意見も広く聞くようにしています。

飼育の場面でも違いがあります。動物に対する愛情が自分のペットとして飼う動物と飼育動物として飼うというのは、若干ズレがあることを、今の若い子に教えるのはちょっと大変です。我々サファリも当然、名前を付けて飼育動物として飼う、飼育するんですけど、若い担当者はどうしてもペット感覚になってしまったりします。その深い愛情は悪くないんですけど、過剰な優しさみたいなものが判断を遅らせて、動物の命を削っていることに気付かせるのがなかなか大変です。

動物って、いつか亡くなるんです。亡くなってしまった時、我々より上の年代の獣医は説明をそれほどしませんでした。私は、治療も死亡原因も全部きちんと説明するようにしています。それは、動物を理解してもらう事と若い子の心の傷をなるべく少なくするためです。これは、すごく難しいです。私もそうですけど、獣医ですから飼育係に対してどこか偉そうなところは当然あるんです。獣医師と飼育係が喧嘩をしている動物園は多いです。うちは比較的仲良くしていると思っています。飼育係のおじさんや若い人たちは、動物好きで入ってきているので、動物に対する勉強とか愛情とか深いものがあるのですが、飼育係のおじさんたちはいろいろな職業経験の人もいて、なかには動物が好きではないような雑な言い方をする人もいました。

その思いが、おじさん達に接していくうちに変わってきました。

ある日、いつも落ち着いている象の担当のおじさんから無線があり、慌てていて、「すぐ来て」と言うので行ったら、オスのアフリカ象（ジム）が倒れていました。これは大変なことなのです。アフリカ象は大人になったら立ったまま寝て、横になって寝ません。横になって寝たら、体重が5トンとか6トンとかありますので、1時間ぐらいで腐りはじめ床ずれになってしまいます。みんなで起こそうとするけど全然起きません。建設業者にクレーン車を持ってきてもらうよう電話をしましたが1時間以上かかるということでした。おじさんにどうしたらよいか相談したら、「メス象に起こさせる」と言い、4頭のメス象を連れてきました。4頭の象が一生懸命起こし、ジムは無事なんとか立ち上がりました。アフリカ象は特別ですけど、飼育係が動物を選べないのです。ライオンとかキリンとかは、勉強して経験を積んでいけば、その動物の飼育係になれるのですが、象担当

は、人が動物を選ぶのではなく、象が人を選ぶのです。象の前に立ったら全員うんちを投げられたり、鼻でパオパオされたり攻撃されますが、20人に1人は攻撃が減っていき何もされなくなる人がいます。それが象に認められた人です。1時間半後ぐらいにクレーン車が来たので、クレーンで松葉杖みたいに吊っておくようにしました。餌も食べるようになったし、点滴をしたら元気になってきましたので、象の部屋で、クレーンの兄ちゃんと寝ていました。

夜中の1時2時ころ、飼育係のおじさんが立ち代わりきてジムに餌をあげていました。私以外は餌をあげたらダメと言っていたが、かわいいからとリンゴをあげていました。その後、私は寝ていました。ガチャンと音がしたので起きてみたら、吊上げていた腹帯は胸にいき、胸帯は首のほうまでいって、ギュっつと吊られている状態で、ジムは苦しいと泣いていました。クレーンの兄ちゃんに降ろしてもらいました。でも、起き上がることはできません。おじさん達は毛布やタオルを濡らして足をマッサージしていました。30~40分ぐらいたつと、ジムの動きは明らかに弱くなってきました。でも、目は生きたい目なんです。動物って死にたいって絶対言いません、常に生きたいんです。生きたいから最後まで暴れるんです。私を睨みながら。

治療を続けていたら、おじさんから「先生、先生、落ち着け」と言われたので見ると、おじさん達はマッサージをやめていました。ジムにも皆さんにも申し訳ないけど、私の獣医としての力量、知識ではジムを完全に助けることはできません。できることは2つ。1つはこのまま自分の重さで1時間後か明日、いつか亡くなるのを待つ。もう1つは安楽死です。おじさん達から「それは先生が決めることやな」と言われたので、今では後悔していますが、安楽死を選択しました。でっかい注射器に麻酔薬を入れて3本持ちます。1本入れたら呼吸が止まります。もう1本入れたら心音が止まります。もう1本は死亡を確定させる薬です。1本目を入れた時点から後戻りはできません。私は今では後悔しています。後悔の理由は、ジムを安らかに殺そうと思ったわけではなく、治せない自分が一番辛かったと思い逃げ出したからです。目を見開き、睨みちらしていたのが止まりました。

ジムの横で座っていたら、10分後ぐらいにおじさんが来て、「こっちを見て。3本足のアフリカ象を見たことあるか。もうどうせジムは生きれんかったんや」とニコっと笑うんです。おじさん達は私が落ち込んでいるのを見て励ましてくれたのだと思います。15分後、おじさんがまた来て「先生も、ジムも、みんなも一生懸命せんかったか？先生が今、そんなに苦しいのを救ってあげたんやからいいやんか。」と言われました。その後、おじさんはまた来て「俺ら飼育係は、死んだ時には何もできんけど、あんたにはまだできることがあるのが分かるか。あんたはジムがどうして死んだか、どうやって救えたか、どこが悪かったのかを獣医さんの中で世界中日本中で共有してほしい。ジムの死を生かせるのは先生だけよ。」と言われ、暗い中、光が明るく見えるのと同じで、私にもまだできることがあると思いました。

その後、ブルーシートをかけ、お供え物を置いて、私は獣医室に戻ってカルテを書いていまし

た。しばらくして象舎に入ったら、ジムにかけていたブルーシートがめくれていました。シートを掛けようしたら、さっきまで、笑いながら話しかけてくれたおじさんが、象の口のところに、肘をついて、おでこをジムの口につけて、ううって唸りながら泣いていました。そのおじさんは、ジムと日中一緒に15年20年くらいいました。悲しくないわけはなかったのですが、若い私が悲しそうにしていたから、ニコニコ笑っていたけど、誰もいなくなって耐えきれなくなって、隠れるようにどろどろのジムの口のところにおでこをこすりつけて泣いていたのです。

私はそこにはいることができず、獣医室に戻りました。しばらくして、おじさんが獣医室に来て「飼育はそんなに難しいものではない。俺は1つしか心掛けてない。それは、動物に対して自分がされたら嬉しいことしかしない。だから、餌をあげる時は、牧草をボーンと投げるのではなく、どうぞと言いながらあげていく。そうしていくうちに動物は笑う。」と言いました。

動物は笑うのです。泣くんです。笑う時に気付いた時が、私は1番幸せです。今日何かしたからすぐに笑うわけではなく、いつか笑い始めるんです。感じられるようになるんです。その時に、これが動物を飼育している事だと気づくのです。

飼うって、誰でもできるんです。漢字で言えば「飼」は、食を司る。餌だけやっとならば飼うなんです。でも、飼育って育まなければいけません。例えば、「保育」は、保って育むんです。でも保つだけなら近所のおばちゃんもできます。でも、育むから保育。教育も教えるなら誰でもできるけど育むから「教育」なのかもしれません。

飼育のその育むとは何でしょう。その半分は、おじさんたちの言う、動物たちにされたらうれしいことをして、幸せにしてあげる環境を作ることなのではないかと思っています。当然、目の前で動物が死ぬことの悲しみもあります。その悲しみもできるだけ前向きに、飼育係の気持ちを前向きにするために引き継がれたものは届けていこうと思っています。

動物が死んだら、若い担当者は、「先生まだあったかいんで助かりませんか？」と言いますが、助からないことは明白なんです。ちゃんとロジックを汲んできちんと丁寧に説明するようにしています。

今のサファリの1番の目標というか、モットーは「動物の前に行ったら、ニコっと笑おうね。」で、みんなで共有するようにしています。

動物も私たちの顔を見てくれますから。されて嬉しいことを今後もしていきたいと思っています。ぜひ、皆さんの家にも動物がいれば、家に帰ったら、「ただいま」と言ってあげてください。金魚でもメダカでもザリガニでも多分いつか笑うんですよ。やはり子どもは特に感じるんですよ。家で金魚を飼っている時「何ちゃんが今日笑っている。」というのです。それは良い証拠で、子どもも笑っているし、金魚も生き生きしているので、是非、皆さんもされたら嬉しいことをしていただければと思います。それが「飼育」だと思っています。

記念講演の感想集

記念講演「どうぶつと共に生きる」

講 師 九州自然動物公園 九州アフリカ・ライオン・サファリ株式会社
取締役園長・獣医師 神田 岳 委 氏

- 神田先生が動物や飼育に携わる職員との関わりを通して、「自分がされてうれしいと思うことを相手に施すことの大切さ」についてお話されていましたが、その内容を聴くことで改めて、私たちの普段の教職員間での互いの接し方、教職員としての児童への接し方について考えさせられる機会となりました。1日1日を過ごすなかで、常に自分の日々の業務に対する気持ち、判断、実施状況等について、正しかったのか、今後どのようにするとより改善されるのか等について検証・改善していくことにより、よりよいパフォーマンスにつながり、同じ組織の一員として、互いに連携、協力することができ、よいチームワークが発揮できるということを改めて感じることができました。ありがとうございました。
- どこの職場でも、全体の和と年齢層関係ない対話が、働きやすい職場や良い効果を上げるといことがわかりました。また、動物も1頭1頭違ってすぐには飼育員の意図をくみ取らないが、私たちが育てている子どもたちも同じであって、やはり、日々の、子どもを人として尊重する態度が、その子の成長につながることを再認識しました。
- 管理職の姿勢として、視野の広がるお話がありました。されたら嬉しい、周りを幸せにする環境を作ることや、人材育成のために、ある決断に至る理由を出来るだけ客観的にきちんと伝えることなどが、あげられます。いつもニコニコして、過度な緊張感に繋がらないようにしているという姿勢も参考になりました。
- 職員への接し方や、意欲の持たせ方など、職は違いますが、参考になることがたくさんありました。今の自分の立場でできることを進めていきたいと思います。ピリピリせずに日頃から関係性を創っていくこと、やってみたいことを後押しすること、適材適所に職員を配置すること、様々なことに気を配りながら日々過ごしていきたいと思いました。神田先生のお話、楽しくてあっという間でした。機会があれば、また、聞きたいです。ありがとうございました。
- 学校をどのように動かすか、教頭という立場と神田さんの園長という立場が近いと感じました。動物や職員の近くで日々の活動を回す大変さを聞いていると、教頭の職務とどう向き合うか考えるヒントをいただきました。ありがとうございました。
- 神田さんの現在の職務を教頭という立場で置き換えられるようわかりやすく話して下さったことに感謝です。「ベテランからも若手からも教えられる」「どんな場面でもにこにこするように努めている」「自分がされたら嬉しいことをする」どれも教頭として大切なことだと思います。明日から少しでも意識して実践できたらと思います。台風のため、直接お話を聞けなかったことが残念でした。機会があったらぜひお話を聞きに行きたいと思います。貴重なお話、ありがとうございました。

- 神田先生のアフリカンサファリでの日々の様子のお話を通して、私自身の管理職としての職員への関わり方や、人としてどのように生きるべきかを考えさせていただいた時間でした。たくさんの人々と接する中で神田先生ご自身の意識が変わり、若い職員や年配の飼育員等のスタッフの意見に耳を傾けながら、いろいろなことを推進するスタンス。そして時には思い切って若者を信頼して「任せてみる」という人材育成の視点等、学ぶべきことがたくさんありました。中でも、1番私の印象に残ったのが、「自分が（人に）されたら嬉しいことをする」という相手をリスペクトする視点です。マネジメントが上手くいくポイントは、「他人を動かそうとするのではなく、自分が動くこと、変わること」だと思いました。改めて、今の自分自身を振り返り、これからどんな「生き方」をしていくべきかを自分に問う機会になりました。ご多忙な折にも関わらず、私たちに貴重な学びのチャンスを与えてくださった神田先生に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
- 神田先生の話を楽しく聞きました。若者を育てるといのは、どの世界も苦勞しているのだな、と思いました。若者を育てるには丁寧に言葉で伝える・説明するのがとても重要だとつくづく感じているので、神田先生の話に「そうそう!」と思いながら聞きました。
- 神田先生の飼育担当スタッフとのかかわりが、教頭と職員の関係に似ていると思いました。仕事を的確に行い、適切な判断を行うことが職員の信頼を得るための基礎になるのではないかと感じました。その積み重ねが風通しの良い職場に繋がるのではかと思いました。
- 1人の力では何もできない、という言葉が印象に残りました。若手からアイデアを取り込んだり、ベテランと意思疎通を図ったりすることの大切さを感じる講演でした。
- 「育」という言葉が印象に残りました。飼育、飼うだけでなく育む。保育、保つだけでなく育む。教育、教えるだけでなく育む。教育現場で最も大事だと感じました。
- 「作業」「仕事」の違いは、教育現場のあり方に通じるものがあり、自分の中でも意識づけようと思いました。教え「育む」こと、「自分がされたら嬉しいことを相手にすること」は、心に響きました。これからの自分のあり方に生かしたいと思います。
- 動物の命も、子どもたちの命も、そして神田先生ご自身のこれまでの人生を含めた命を実感した内容であった。そこから、出会いの場は常に「今」である事だと私自身が気付かされた様にこの講演を通して思った。子どもや教職員が将来に渡り価値ある出会いであるためにも、サーバントリーダーシップとしての立ち位置から周囲を盛り立てていけるようにしていきたいと振り返った。有難うございました。
- 象の糞を処理する際に、ただ片付けるのではなく、毎日しているからこそ違いに気付くことの話が、子どもたちの様子をアンテナ高く見守ることへと重なりました。命をあずかる職務という立場で共感することが多々ありました。
- 動物の本能の行動、例えば「生まれてすぐに立ちあがろうとする姿」などから、大人が本当にはないといけないことは何かを考えるきっかけとなるなど学ぶことが多かったです。

- 「動物の『いのち』が小学校から遠ざかってしまった、悲しいな」との感情が…。鳥インフルなどの対応から、飼育する活動は学校において皆無であり、改めてその重要性を感じました。どのように子どもたちの情操を育ていけばよいか大きな課題だと感じました。
- 学校も命を大切にすることについて改めて考えさせられました。
- 神田先生のお話は、何度聞いても夢中になり、時間の立つのを忘れてしまいます。講演の中で、先生が「自分1人の力では何もできない。自分では何もできないから職員との関係を大切にしている」という発言が印象に残りました。組織の中で管理職として頑張っている姿も勉強になりました。
- 神田先生のお話を楽しみにしていたので、このような方法で実現してくださってありがたく思っています。若者の感覚、大切にしたいです。
- 1時間半、ずっと神田ワールドに引き込まれていました。動物の飼育、獣医としての仕事の話を通して、人を育てる我々教職員の役割、使命を再認識させられました。
- ゾウさん「ジム」のエピソードは最期、涙が出ました。神田先生の若かりし頃の飼育員との関係性は、今の学校現場のあるべき姿と重なります。1時間30分があつという間でした。素晴らしい講演をありがとうございました。
- 感動して泣きました。命と正面から向き合っている方々の思いが伝わってきました。象の死を看取るお話は、子どもたちにも聞かせてあげたいです。
- アフリカゾウが想像妊娠するお話に興味をもちました。また、ゾウの飼育員は象に選ばれないとなれないということになれないということにとっても驚きました。人を惹きつける話し方、抑揚の付け方など大変勉強になりました。
- いつも笑顔の神田先生も様々な苦勞を乗り越えられてきて今があるのがよくわかりました。ベテラン飼育員さんたちから教わることや若手からも学ぶことなど、学校に置き換えても同じことがあるなと思いました。今日はとても良い刺激を受けました。神田先生に負けずに頑張ろうという気持ちになりました。ありがとうございました。
- 神田先生の話聞き終わると、毎回心が豊かになった気持ちになります。私も相手を元気づけられる話ができるように、日々精進しようと思えることができました。今回は、このような配慮をしていただいたおかげで、参加予定でなかったなかつた私もお話をきくことができ、有り難かったです。
- 会場でぜひ聴きたい内容でした。
- 会場で聞きたかったです。残念でした。
- 改めて講演していただきありがたいと思います。

感想に多くの質問が記述されていましたが、紙面の都合で掲載していません。
提言者に直接に質問して、交流を深めてください。

第1 A分科会 教育課程に関する課題

提案主題 子どもも地域も学校も活きる教育活動の実現のために
サブテーマ ～実効的で持続可能な教育課程の編成運用を通して～
協議の柱 教育課程を実効的で持続可能にするために、教頭としてどのような役割があるのか。

提言者 国東市立国東小学校 教頭 友成 恒二

提案主題 弥生地区のコミュニティースクールの推進について
サブテーマ ー社会に開かれた教育課程を推進するためにー
協議の柱 「社会に開かれた教育課程」を実現していくために、教頭として地域の人的・物的
資源をどう活用し、社会教育との連携をどのように図っていけばよいか。

提言者 佐伯市立昭和中学校 教頭 向 暁 和 博

1 感想

- 持続可能な（地域と連携した）教育課程について、教頭を中心とした組織的（教頭、教務主任、研究主任等）な取組に興味を持った。
- ふるさと科の実践により、教職員が主体的に教育課程を運用していくための、教頭の関与性や、CSの推進に関わって、学校と地域を繋ぐ調整力など、各地区の取組が大変役に立った。
- 地域と連携した取組を教育課程に取り入れることで、より地域学校協働活動も発展していけることがよくわかる。単年でできることは、そうそうなく、前年度にしっかりとした計画を立て、教育課程に地域を位置付けるようにしなければならないと感じた。
- 持続可能な教育課程の体制づくりについて参考になる実践があり、本校でも取組をしてみたいと感じた。
- 地区の長期ビジョンを作成する取組は参考になった。（姫島の小中9年間を見通したふるさと科を中心とした教育課程、弥生地区の4校合同による行事やネットワーク会議。）
- ふるさと科を軸とした教育課程の推進に感銘を受けた。地域密着型の総合のモデルケースだと思います。
- 国東小…本校でも地域のゲストティーチャーをお招きした活動を行っているが、発表者も述べているように実効的で持続可能な教育課程にする必要があると感じている。その時限りの、行き当たりばったりの活動にはしたくないと思う。
昭和中…地域と共に行う避難訓練や災害発生時の子どもたちの引き渡し方法、時に保護者以外の方へ渡す時の法的な面について詳しくお聞きしたかった。これからの避難訓練は自助・共助・公助の公助にフォーカスした訓練も行っていく必要があると思っている。
- 地域と関連した行事や教科活動が多いと、授業時数が膨らんだり、教職員が負担に感じたりする事が問題になる。その教育過程を持続可能にするために、大変ご苦労されていることが理解できた。教育過程特例校に申請したり、教科横断的に教育過程を編成しなおしたりと大変だったと思うが、そのおかげで教職員の意欲や子どもの学力が上がったのだと思う。1人の努力によって成り立つのでは長続きしないので、教頭として、教職員に活動の意義を伝えることで、教職員一人一人が自律すれば、持続可能になるのではと思う。ありがとうございました。

- 地域と協働した教育課程を実施することが、対話的で深い学びの実践による学校教育の質の向上、教職員の資質向上と働き方改革に繋がっていくことを感じ、教頭の役割を考えさせられた。
- CSの取組として、地域の小中学校が合同で防災教育を行なっていることが素晴らしいと思った。また、地区の自治会長を巻き込んで訓練に参加していただくことも大変参考になった。
- 地域とともにある学校を作っていく中で、それぞれの学校の実践はとても参考になった。学校規模や周りの環境によって地域との関わりは変わってくると思うので、自校に合わせた実践に取り組みたい。
- 社会に開かれた教育課程を実施していくために、様々な人と連携していくべきであることと、組織的に対応していくこと、そのために教頭の役割が重要となることが大変参考になった。
- 地区で学習会を行った。管理職がリーダーシップをとりつつ、教職員がやらされ感を持たずに主体的に職務に取り組むことについて、あらためて考えることができた。
- 本校においても4点セットの中に、学校、地域、家庭それぞれが担う取組を明記し、学校運営協議会の中で共通理解を図り、取組を進めている。特に地域との連携においては市教委の社会教育課との連携を十分にとりながら、教育コーディネーターの役割を見直していかなければならないと感じた。
- 教頭という立場は、学校の実情にあわせながらさまざまな人や機関と連絡調整をしていかなければならない。年間計画をしっかりと立てそれに沿って準備が必要である。時間的な負担が大きいと思われるが、国東小は、地域との活動において事前だけでなく事後も児童の様子を伝えるなどして取組について共有を図っている。そうすることで、事業や児童の、より良い成長につながるのだと感じた。
- みなさん苦労しながらも色々な工夫をして取り組んでいる様子がわかった。
- 学校、家庭、地域と課題を共有することの必要性を感じた。
- 小規模校に勤務しており、教育課程に関する課題も多いので興味を持てた。
- 学校の規模や特徴に合わせて、教育課程を工夫しているところが参考になった。
- 参考になることが多く、共感する点が多かった。
- 地区でレポート審議を行ったが実施できず残念であった。

第1B分科会 教育課程に関する課題

提案主題 米水津地区学社連携の推進
サブテーマ ～地域とともに創る複式学級導入に向けた教育課程の編成を目指して～
協議の柱 地域を生かした教育課程を編成するために、学校と地域との繋がりやの要となるべく、教頭として求められる姿は何か。

提言者 大分市立米水津小学校 教頭 菅 秀 一

提案主題 「育成を目指す資質・能力」の向上に向けた教育課程の工夫・改善
サブテーマ ～教頭として、どのように組織的な授業改善を支援するか～
協議の柱 組織的な授業改善を図るため、教頭としてどのように関わるか。

提言者 別府市立朝日中学校 教頭 千 葉 優 子

1 感 想

- 小さい学校は地域との関わりが深く、様々なことで協力関係にありすばらしいと思った。ただし連携のため綿密な連絡調整が必要であり、そこで教頭が果たす役割が大きいだろうなということがうかがえた。複式学級があることで、教育課程の面での苦勞も感じられた。中学校の提言では、教頭としてすべての1人実践と事後研に参加していることが、学校全体の研究の成果に繋がっていると思った。中学では教科担任制のため、方向性を揃えることが難しいと思いますが、取組は大変参考になった。
- 教育課程を編成する際に、地域との連携(つながり)についてどのようにしていくか等、教務主任と話をしていきたいと思いました。また、学力の向上について、組織的な授業改善をどのように進めていくか、研究主任等と話をしていきたいと思いました。
- 佐伯市立米水津小学校の菅教頭先生の提言は、学社連携の活発で良好なあり方を知る機会となり、たいへんありがたかったです。特に、教頭先生が、実施の中心に関与しながら、学校の教育課程にしっかりと位置付けていることが、活動の継続を安定させていると感じました。
- 米水津小学校の提言では、地域との窓口となる教頭の重要性の再確認ができた。目の前の子どもたちに何が必要かを見極め、教育課程を編成し、必要な支援を地域に求めるには、教頭の調整力が鍵を握ると考える。
- 米水津地区の連携のあり方が参考になった。
- 米水津小学校は複式学級を導入する小規模校であり、その中で地域と連携した教育課程の編成に向けた取組の報告であった。教頭が地域との窓口となり地域の思いも受け止めながら具体的な活動を実践している様子が素晴らしいと思った。PTAへの説明の段取り等、大変参考になった。

- 公民館と学校の連携については、地域ごとの違いはあるにせよ、働き方改革の視点で考えると大きく変更しなくてはいけないことは困難であるが、今後のことを考えると必要と思われる。子どもの実態把握がいずれにせよ重要。
- 今年度教頭職に就いたので、日々教頭として求められる姿、役割について手探り状況です。菅先生、千葉先生の提言を読ませていただき、勉強になりました。
- 担当で設定したことを全員のものにする事の大切さ・難しさを感じました。
- 朝日中学校の取組の中で、「対話力」「表現力」「課題解決能力」の育成について、特にわが校では「対話力」について課題が多いので、具体的な詳細を話し合いたかったが、できなくて残念だった。
- 「組織的な授業改善」については、自分自身も悩みや課題が多く協議したいところであった。
- 授業の中でのペア学習やグループ学習の様子を話し合えたらと思った。一人一人が自分の考えを持ち活動することが「対話力」や「課題解決能力」を高めるために必要であるが、自分の学校でも多くの課題がある。
- 朝日中学校では「校内研究部会」を週1回開催できていることに驚きを感じました。どのような時間設定で工夫されているのかをぜひ伺いたかったです。わが校では勤務時間内での設定ができずに定期的な開催が難しい状況です。
- 発表者だったので、中止になって残念です。
- 朝日中、米水津小の提案大変お疲れ様でした。
- 以前、やはり校内研究で「対話」を研究したことがありますが、「対話」を表現活動の1つととらえると、基盤としての情報収集や活用、言語活動の充実が関連しています。私も研究続けます。
- 担任や学年部ではなく、教頭としてどのように教育課程と関わっていくのかを考えた時に、とても難しいことだと感じました。職員、CS、地域との連絡・調整をより円滑に進めるための組織やシステムづくりが大切になってくるかもしれません。
- 教育課程を編成するうえで、地域との連携や職員の組織的な対応等、調整の難しい課題が多い中で、教頭としてどのようにかわっていくのがベストなのか悩みが多い。自分にとって、編成の負担が1部の人に偏らないように調整をしていかなければならないことが1番難しく感じている。

第2 A分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 子どもたちの学びを保障するために
サブテーマ ～学校体制づくりと関係機関と連携した子どもと家庭への支援の試み～
協議の柱 子どもたちの学びを保障するための体制づくり、特に個別の教育的ニーズへの対応、家庭への支援はいかにあればよいか。

提言者 大分市立こうざき小学校（神崎小中学校） 教頭 野 中 尊 立

提案主題 主体的に未来を切り開く子どもの育成
サブテーマ ～小中一貫教育の推進における取組を通して～
協議の柱 目指す子ども像を実現するため、小中教職員間の連携を教頭としてどのように図っていくか。

提言者 豊後大野市立犬飼中学校 教頭 小 坂 敏 之

1 感 想

- 子どもの発達に関する課題に対して、小中連携はもとより、様々な専門機関・関係機関との連携は必須であり、「チーム学校+」という考えが参考になった。
- 特支チーム、授業改善チームと2チームに絞った取組が、児童の授業への集中力を高めるのに有効だと感じた。新大分スタンダードもユニバーサルデザインや支援を必要とする児童生徒に対して作られているので、チーム間の協力もしやすいと思う。小中統一した時間割、日程管理を立ち上げる苦労が感じられた。これまでの校種による行事など見直して、新たに必要なもの、変更すべきものなど精査していくことが求められそうなので、協議の中で多くの方の意見をお聞きしたかった。レポートの内容は非常に貴重でした。ありがとうございました。
- 小中一貫教育校として組織的に取り組むためのステップと教頭の役割が明確に示されており、大変参考になりました。
- 小中一貫校に向けての取組は小中の連携にも参考になると思った。子供や学力・生活についてどのようにして意識をすり合わせていくか難しいが、小中全職員を4つの班に分けて起案を作成していく過程で、理解が深まったのではないかと感じた。
- 小中一貫校開校に向けて、地域、保護者のみなさんに理解を得るように丁寧に対応され、大変かと思います。本校も中学校教諭の専門性、小学校教諭のきめ細かさをお互いに認め合いながら取組を進めていっているところです。小・中がお互い強みを認め合いながら取組を進めています。やはり本校の課題は中期ユニットの取組です。何か取組ができないかと思案中です。
- 小中一貫教育実施校の取組や小中一貫教育校に向けての取組を知ることができた。特別支援教育の視点をもとにした教育活動の実践やSSWなど関係機関と連携した取組は今の教育の中でも重要なポイントと思う。小中一貫教育の立ち上げはいろいろな問題があり、整理してすすめていく難しさがわかった。

- レポートは小学校・中学校とも小中一貫教育校のものであった。一貫校の良さもあるが、デメリットや苦労もあるので、的確に評価を行う必要があると感じた。
- 学校の実態をもとに、組織的な取組を進めていく上での教頭としての具体的な役割や取組がとても参考になりました。勤務校でも活かせる点があり、有意義でした。
- 地域によって仕事に違いがあり難しい面も多々あると感じた。いろんな学校のSSW、SCの取組が知りたい。
- 支援を要する児童や生徒に関する問題は、どの学校でも最重要課題です。各校の教頭が日々奮闘しているはずで、人が配置されることを望みます。
- 様々な事情を抱えていたり、支援が必要な児童に対して今、自分の学校に必要な課題をチームとして取り組んでいったこと、関係機関と連携して対応していったことは、今後、非常に必要なことだと思います。教頭として1人でできることには限りがあるため、この2つの取組だと思いますが、丸投げになるのではなくポイントでの助言、定期での観察が必要不可欠だと共感しました。
- 支援を要する生徒に対応する際の教頭のあり方が明確になっていたのも、参考になった。
- 「校内体制を整え、UDや新大分スタンダードの徹底に取り組んだことにより、対応する事柄が減り、余裕ができた」ことが、子どもも職員も安心して学び、働くことができる学校づくり、職場づくりにつながるということが参考になりました。
- チーム学校として組織的に取り組むために、教頭がどのようにリーダーシップを発揮していけば良いか参考になりました。
- 現在、多くの学校で支援を必要とする子どもたちが増えている。そのため、必要な人材が不足している学校も多い。今回の提言では、校内の組織を見直し、関係機関との連携の仕方についてのレポートもあり、ぜひ参考にしていきたいと考えた。
- 本校でも同様の課題があるので、イメージが重なり、今後の支援の参考になりました。内容が具体的で大変参考になりました。ありがとうございました。
- 以前、義務教育学校に勤務経験がありますが、小中教員の意識の違いに戸惑ったことを思い出します。また、中期（5・7年）となると、本来ならリーダーとなるべき6年生が活躍する場が少なくなってしまうと思います。学年が増えるとその分の調整が大変だなと感じました。
- 小坂教頭のレポートは学校の組織としての取組と教頭としての取組がきちんと整理されており、それぞれの課題や取組に対して、教頭としてどう取り組んだのかがわかりやすくまとめられていてとてもよかったです。

第2B分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 特別な配慮を必要とする児童への組織的な取組と幼保こ小の連携について
協議の柱 特別な配慮を要する児童への組織的な取組として、幼保こ小がどのように連携・継続していけばよいのか。教頭の役割は何か。

提言者 竹田市立直入中学校 教頭 阿南正樹

提案主題 支援を要する生徒・保護者の願いに沿った、自立支援の取組と教頭としての役割について
サブテーマ ～不登校傾向の生徒と保護者、学校、専門家や関係機関との連携を通して～
協議の柱 支援を要する生徒、その保護者に対して組織的な対応を行うために、教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 大分市立東陽中学校 教頭 中森栄児

1 感想

- 特別な配慮を必要とする児童・生徒はどの学校においても年々増えてきている。教頭の教育相談コーディネーターの兼務は関係機関との連絡・調整をスムーズに行うための良いアイデアだと思う。ただ、普通でも多忙な中、業務過多になってはいないか危惧するところである。
- 特別な配慮を要する児童への支援は、なるべく早くから実施すべきであるという点を再認識しました。
- 小中一貫教育について、子どもの数が減ってくる中で、学校再編の在り方を考えさせられた。特に外部との連携が必須の教頭の職務が鍵になり、激務に拍車がかかる気がする。
- 学校規模によって特別な配慮を必要とする児童への対応には違いはあるが、規模に応じた組織的な取組の必要性を改めて実感した。
- 子どもの発達課題は年々多様化している。人手不足も拍車をかけている為、教頭職の果たす役割は重要である。
- 本校でも、不登校生徒や特別な支援を要する生徒が多数在籍しており、同様の問題があり、対策をしている。保護者との対話や作業療法士、家庭学習支援制度等、知らなかった関係機関もあり、教頭として参考になった。
- 特別な支援を要する生徒・保護者に寄り添う組織的な学校組織（体制）のあり方について、参考になる提言でした。

- 特別な配慮を必要とする児童生徒や不登校（傾向）の児童・生徒とその保護者に対して、組織的な取組をされている2校の実践を自校の様子と重ねながら、とても興味深く拝読させていただきました。組織体制づくりのために、学校と専門家や様々な人々、関係機関等の資源を繋ぐこと、そしてそれらを効果的に活用していく仕組みづくりが、教頭としての大切な役割だと改めて感じました。学校に関わってくださる外部の方々の協力を得られるように、日頃から信頼関係を築いていきたいと思います。
- 不登校生徒への組織的な対応の事例を学ぶことができた。
- 不登校傾向の児童・生徒も年々増加している。学校でできることは、不登校傾向の児童・生徒の学力保障及び保護者のサポートである。関係機関と連携しながら保護者に繋いでいく。本報告書は学校ができる最大限のことをやっていると思う。
- 学校全体の最優先課題を解決する手段・方策を、教頭として組織的に仕組んでいく姿勢を参考にしていきたいと思いました。
- 現場がうまく回っていないと感じる場合は、教頭もコーディネーター的な動きを作っていくことも1つのやり方だとわかりました。
- 改めて組織として対応することが重要だと分かった。また、その方法も参考になった。
- 自校の問題点から課題を見出し、解決に向けた教頭としての組織的かつ効率的な取組は素晴らしいと思いました。スピード感もあり、校内外の人材、組織を有効活用して状況を改善していくところが大変参考になりました。
- 子どもの発達に関する課題は、不登校や学級経営とも関連しており、学校経営上大きな課題となっているので、各校（教頭先生）の具体的な取組は大変参考になります。
- 自校がもつ課題と重なる内容が多く、提言も現実的で具体的であったため、大変参考になりました。
- 実践に基づく提言から多くのことを学ばせていただきました。
- 提言者として参加予定でしたが、今後の職務のためにも当日皆様のご意見を伺いたかったのですが、それが叶わず残念です。

第3 A分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 GIGAスクール構想における環境整備及び体制づくり

サブテーマ ICT教育推進の取組について

協議の柱 教頭として、ICT教育推進に向け、環境整備・体制づくりにどう関わり、どのようにして教職員の資質向上につなげるか。

提言者 中津市立深水小学校 教頭 木下 雅文

提案主題 子どもと向き合う時間確保のため教頭として学校の教育環境整備にどう取り組むか

協議の柱 教頭として、教員が一人一人の子どもと向き合う時間を確保するために

① 校内体制づくりをどうすすめるか ② 地域や家庭とどう連携していくか

提言者 宇佐市立北部中学校 教頭 宇都宮 忠

1 感想

○どの学校も、人手が足りない中で、ICT使用環境の設置に苦労した様子が、痛いほど伝った。

また、極小規模校ながら、忙しい中、ご努力されており、素晴らしい。

○ICT機器の運用については、やるべきことが多く、少人数で対応するには負担が多いため、新しい部会で対応する方法も有効だと感じました。職員も自分がやらなければという意識付けにもなると思いました。学校の備品等も定期的に整理を行うことで、管理業務の負担も少なくなるし、保管場所の削減にもつながると思いました。思い切って使わないもの、使いそうにないものを処分することも必要だと感じました。

○子どもと向き合う時間をどう確保するかという視点での実践報告であったが、教頭のアイデアが表れていた。自分の学校で何をすればいいのかを考えるヒントをもらった。

○教育環境整備に関する課題について、組織的に取り組む重要性を再認識しました。

○（深水小）本校でもICT教育の推進に努めていますが、教職員間における意識と技能の個人差が大きな課題でした。この分科会の取組では、運営委員会等で課題を共有し、それらを1つ1つ解決していくという進み方なので、教職員の参画意識が高まると思いました。ICTに限らず、他の組織運営にも有用なのではないでしょうか。（北部中）担任が安心して子どもと向き合えるために、まわり（ひと、もの、こと）をどう整備していけばいいかわかりやすくまとめたレポートでした。小さいことでもいいからできることを積み上げていくことが、結果として大きな環境整備につながっていることがわかりました。今後、校内体制づくり、家庭や地域との連携を深め、さらなる環境整備につなげていってほしいです。

- 教育環境の整備に向けてどちらのレポートでも教頭（管理職）が全体を見通しながらリーダーシップを発揮して、組織的な取組を進めていたのが素晴らしいと感じた。
- ICTの推進も働き方改革も管理職から枠や時間だけ設定しても組織的な取組になりにくい。やらされ感、多忙感が生まれる。取組の価値を浸透させ、内発的動機付けを行い、いかに職員に自主性を持たせるかが重要であるということが、レポートから推論できた。教頭として、どの教育活動もミドル世代に仕事を任せ、活動を承認しながら、伴奏していきたいと思う。
- 「ひと・もの・こと」の視点でわかり易くまとめられていて、とても分かりやすかったです。特に、「もの」の視点における備品台帳による管理・年次計画による購入・予算の管理については学校事務との連携により子どもと向き合える時間を生み出すための有効な手段であると感じました。今後の学校運営に活かしていきたいです。
- 学校の分掌の組織づくりについて、どのように進めていけばいいのかという良い参考になりました。人が変わっても同じようにできる、持続可能で負担感の少ない組織づくり、学習環境づくりを進めたいと思いました。
- 実態に即した取組で初めの第1歩からが報告されているので自校でも取り組みそうだと感じ、大変参考になりました。
- 教育環境づくりの教頭の視点として、教職員が子どもに向かえるために1人でできるようになるのではなく、周囲の関係者を人材として活かす方向に考えを巡らせていくことに私も関心をもっており、その上で非常に参考となった報告であった。
- 中津市立深水小学校 木下先生の提言について…GIGAスクール構想における校内体制づくりについての経緯がよく分かり参考となりました。ICT教育に係る膨大な対応が必要となる中、教頭が担うべきことと情報教育担当が担うべきことを明確にすることが、主体的な組織運営には必須だと改めて感じました。
- 宇佐市立北部中学校 宇都宮先生の提言について…「ひと」の視点での教育環境整備の項にある、SSS、学校主事、学校事務職員、養護教諭等が「毎日の学年主任会への参加」ということに関心を持ちました。教員以外のスタッフも含めて学校教育目標のもとチームとして取り組んでいくことが必要とされる中で、日々の教育活動の具体が話される場を共有できることはとても有効だと感じました。
- ICT教育推進のための環境整備、体制づくりが参考になった。

第3B分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 小規模特認校としての特色ある教育活動のあり方について
サブテーマ ～「一人一人が主役の学校」子ども・保護者が選択してよかったと思える学校に～
協議の柱 教頭として、教育環境改善を図りながら、小規模校特有の課題を職員と共有し関与していくことで、具体的にどのような指導性が発揮できるか。

提言者 由布市立石城小学校 教頭 田邊 英一郎

提案主題 児童の思いを受け止め、楽しく安心して過ごせる学校であるために
サブテーマ ～教職員が児童と向き合う時間の確保と、チームとしての組織的な対応～
協議の柱 教職員が児童と向き合う時間を確保し、チームとしての組織的な対応をすすめるために、教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 日出町立川崎小学校 教頭 北崎 亜希子

1 感想

- 小規模特認校としての教育環境整備に関する提言では、特認校だからできるよさを活かして環境整備をされる様子がよくわかりました。
- 田邊先生のレポートについては、現在の勤務校と似たところが多く、共感できることが多かったです。小規模特任校として、どのような取組を進めていくか、共通理解することの重要性について考えさせられました。
- 小規模特認校の特色を生かしつつ、特認校ならではの課題もよく分かった。また、若い教職員の人材育成について、どの学校規模でも共通の課題であるため、機会があればその解決策等について、他郡市の先生方と交流したい。
- 同じ小規模特認校として地域との関わりや関係機関との関わり方が教頭として参考になった。地域外の子どもが入ってくる中でどのようにして教育環境を整えていくべきなのかの示唆を受けることができた。
- 小規模校ならではの縦割り班の取組をしているところが参考になりました。小規模特認の認定を受けることで、児童数は増えても支援が必要な生徒の割合が高くなれば、加配等が付かなければ教職員の負担が増えるだけになり、子ども一人一人に対しての時間が取りづらくなるように感じました。それを埋めるために学校運営協議会を機能させて地域の教育力を生かせるように考えているので素晴らしいなと思います。
- 小規模特認校の良さは、全校児童を全教職員で育てられることだと思う。いかに情報共有をこまめに行い、教職員のベクトルを揃えるか、が教頭としての責務だと考える。苦心されている

ことは十分共感できた。若者層のモチベーションを上げるとともに、先輩たちをたてつつ教えてもらうスタンスで、児童の縦割り班活動をよき伝統として充実させていくとよいと思う。特別支援については、教員の力量が大きく問われる。専門機関との連携も必要かと思う。

○北崎先生のレポートでは、専門職の方の力を借りながら組織的に対応することの大切さを学ぶことができました。

○日出町立川崎小学校の提言では、外部人材外部団体との連携・活用が教育環境整備のポイントであるということが大変参考になりました。

○本校でもボランティアの活用は行っているが、外部人材の積極的な活用はできていない。教職員が児童と向き合う時間、教材研究の時間を見出せるように、提言された工夫の中から実行可能なものを、まずは取り組んでいきたい。

○日出町川崎小学校の取組で、外部人材を活用した取組が大変参考になりました。限られた人材を有効に使うことが今後ますます重要になってくると思いました。そのためにも地域と良き関係を構築しなければ前に進まないと感じました。

○教職員の様々な意見を取り入れたり、多くの情報を収集したりしながら実践につなげることが大事だと感じた。

○教育環境整備に関して、学校規模に応じてや、地域によって違いがあり、課題も違っている事が分かった。そんな中でも教頭としてどのように課題と向き合っていくかは、ある程度統一しておいた方が良いと感じた。

○子どもや保護者が学校で楽しく安心して過ごせるため、またそのために教職員が組織的に対応できるための教育環境整備に関する2本の提言について、本校と重なる実践もあれば、今後取り入れたいと思う実践もあり、とても参考になりました。教職員はもちろん、外部人材とも連携しながら組織的に対応することの必要性を改めて感じました。

○教育環境整備に向けた2本のレポートを興味深く読ませていただいた。どちらのレポートも地域や外部との連携、教員を含んだ教職員集団の協働について様々な取組や工夫については紙面だけでなく、詳しいお話を聞きたいと思いました。ただ教育環境の整備については特効薬はなく、本当に地道な取組の積み重ねしかないと言うことも改めて実感しました。ありがとうございました。

○これまでの自分にはなかった視点を見出すことができ、とても参考になりました。

第4 A分科会 組織・運営に関する課題

提案主題 目標達成のための組織マネジメントの取組について
～人材育成、働き方改革の両輪を通して～

協議の柱 人材育成と働き方改革を両輪とした組織マネジメントを進めるための教頭としての役割はどうあればよいか。

提言者 白杵市立福良ヶ丘小学校 教頭 板井 達彦

提案主題 円滑な学校運営のためのICT活用

サブテーマ ～学校運営の効率化と働き方改革を目指して～

協議の柱 教頭として学校組織内の情報共有の強化や働き方改革をすすめるためにどのような役割を担えばよいか。

提言者 日田市立三隈中学校 教頭 郡山 治久

1 感想

- 働き方改革と人材育成を両輪としているのは参考になった。
- 若手職員のみドルリーダーへの抜擢など、組織マネジメントの工夫点が参考になった
- 見直しや改善には、時間とエネルギーが必要ですが、それを乗り越えなければ成果は得られないと感じました。
- 校務の情報化は是非進めたいが、そのためには職員の意識改革と力量の高まりを進めたい。
- それぞれの学校で、教頭という立場でどんなことができるのか、取り組んでいる実践を読むことで生かせることが見つかったので、参考になった。
- 教頭として、どうあればよいのか考えさせられました。これまでの準備など、本当にお疲れ様でした。
- 白杵市板井先生…職員一人一人が学校経営に参画していくような組織マネジメントができていると感じた。達成感をもって仕事ができると、確かに疲労感は少なくなると思う。職員一人一人が、課題を意識して活動していくには、3部会の役割が大事だと思うが、どのように3部会の時間を確保し運営しているのか知りたいと思った。
日田市郡山先生…ICT機器を活用し、職員間の情報伝達をスムーズにする具体的な取組が記されていて、参考になった。ポータルサイトについては、もう少し具体的にどのような情報を共有しているのか等運用方法を知りたいと思った。どの学校でも同じようなシステムで、情報の共有化がなされていると勤務校を異動しても業務がスムーズにいくと感じた。
- 大変お疲れ様でした。参考にさせていただきます。
- 各学校のそれぞれ参考となる部分があり、大変参考になりました。
- 私が勤務する学校でも教職員の働き方改革に関する項目の低評価が問題となっています。年々、教職員数が減少しているにもかかわらず、時間外労働時間の平均は減少しています。こ

これは、学校レベルでできる数々の働き方改革の取組の成果だと感じています。しかしながら、教職員数が減少したことにより、一人一人の業務は量・質ともに負担は増加し、達成感を得るも負担感の方が勝ってしまうという現場が起きています。今後も学校現場は、各学校や地域の創意工夫をいかした取組を継続・改善しつつ、国・県レベルでは、予算を確保し増員に努めることや通知表の回数を減らすための2学期性の実現等を進めていく必要があると考えています。

- 私も、働き方改革を推進しながら教員の意欲を引き出し、それが子ども達の学ぶ意欲や生きる意欲の向上につながることを命題であると考えており、若い世代が「子どもたちと一緒に学ぶことは楽しい」、「やりがいのある仕事だ」と感じてもらうことが大切だと思っています。
- 若手教職員が多くなっていく中、どのように育成していくのかは喫緊の課題ですが、「やりがい」と「育成」を両方育てるための方策として、参考になりました。
- 本校も1人1台端末を用いてTeamsで職員間の情報共有を、tetoruで保護者からの欠席・遅刻連絡を行うことにより、担任等が教室にいても随時最新情報を共有することができています。そのため職員朝会をなくし、1時間目の授業開始時間を早め放課後の時間を長くすることができ働き方改革の一役を担っている。しかし直接の話し合いも必要であり、週1回職員夕会を実施しています。
- 若手教職員では教職員としての視野やスキルに不安あり、ついベテラン教員に各種主任を任せっぱなしになっている中、人材育成もかねて若手教員を抜擢している取組は参考になりました。「若手の発想」や「ベテラン職員が支える体制」などの具体をお聞きしたかったです。
- コロナ禍の影響もあり、様々な場面で「前例踏襲」ではなく、「ゼロベース」で行事等の見直しについて言われることがあります。今の学校の多忙化の中にあって、コロナ禍は様々なことの見直しのチャンスだと思い、学校教育目標の達成に向けて、「本当に必要なことなのか?」「より効果的・効率的な形はないのか?」を問い続けているところです。「前例踏襲にはならないように」という視点については、誰もが意識していると思うのですが、「ゼロベースで」というのは、提案者にとってかなり負担感があるのではないかと察します。そのような面と、「こだわり」や「達成感」のバランスなどを具体的にお聞きしたいと思っていたのですが、紙面のみで終わってしまい残念に思っています。
- 働き方改革の一翼を担っているICTの活用だが、報告の課題にあるように情報をリアルタイムで発信しても受け取る側が常時確認しないと意味のないものである。むしろ双方向の情報伝達より、一元管理者である管理職（教頭）へ、一方向への常時発信をし、その情報を管理者がより良い伝え方で知らせることができればよいと思った。また、教頭として、1度入力した情報（数値・文章）などを、別の媒体等に再度転記、複製するのは大変な労力を要する（自分の力量もあるが…）。よりシステムが一元化されて教頭職の働き方改革につながってほしい。

第4B分科会 組織・運営に関する課題

提案主題 地域との連携における教頭の役割
サブテーマ 「自然環境を生かした学習」を通じた地域との持続可能な連携をめざす組織づくり
協議の柱 地域との連携を持続可能にしていくために、教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 日田市立高瀬小学校 教頭 高島 哲史

提案主題 支援を要する児童・生徒への組織的な取組について

提言者 大分市立大分西中学校 教頭 戸上 忠

1 感想

- 地域連携の目的をはっきりさせることが肝要。子どもたちの学びと、子どもたち自身のゆとり、教職員の働き方のバランスを調整していくことが、管理職の務めだと考える。
- 「地域との連携を持続可能にしていくために、教頭の役割はどうあればよいか。」について大変参考になりました。「地域連携ガイドブック」を作成し、「地域部」を新設したことで、職員勤務超過時間が減少した。このことは、教頭の役割として、かなり大きいと思いました。勤務超過時間の減少にもつながるし、地域との連携を持続可能にしていくキーポイントとなるのが、「地域連携ガイドブック」及び「地域部」の新設だと感じました。また、今後の運用の仕方によって地域との連携の持続の可能性がさらに広がっていくのではないかと感じました。
- 教頭が先頭に立って地域とつながりを持って開かれた学校を創造していく取組は参考になりました。しかし、教頭をはじめ教職員の働き改革との兼ね合いは課題であると私自身も感じています。しかし、地域の方々にもじっくり数年かかっても理解してもらい、お互いが無理なくできることを模索していく必要があります。
- 教職員の異動があつてメンバーが変わっても、「地域との連携を持続可能」にしていくことが必要だと感じました。そのために、教頭がどんな役割を果たすべきかについて考えさせられました。「地域連携ガイドブック」の作成、「地域部」の新設などを行い、これをうまく運用していけば地域との連携を持続可能にしていくのではないかと感じました。
- 小学校部会について…地域との関わりが密接でとても素晴らしいと思いました。「地域連携ガイドブック」の取組は取り入れてみたいです。
- 地域との交流が休業日になることが多く、職員にどのように参加してもらうのか、ボランティアなのか勤務なのかははっきりしていないことが課題だと感じました。

- 様々な背景、事情を持つ児童・生徒に対する指導についてとても参考になりました。児童生徒の「生活の自立」「学習の自立」「生き方の自立」に向けての基礎・基盤づくりを組織的に行うことにより、若手教員からベテラン教員まで幅広い層の力量アップにつながると思いました。「語る」こと、いわゆる表現力の育成過程のなかで、思考力・判断力・表現力の育成を図り、自他ともに大切にできる児童・生徒の育成につなげようとしていることがよくわかりました。ありがとうございました。
- 支援を要する児童への組織的な働きかけは、現任校でも喫緊の課題であり、現在取組を推進している。児童と保護者の困りを学校としてどう解決していくか、関係機関の力を借りながら模索しているが、そう簡単にはいかない。その場しのぎではなく、将来を見据えたものになるよう、地道に取り組んでいくしかない。
- 市立ではあるが行政組織との連携は複雑であり、報連相が非常に大切であることが理解できた。
- 様々な家庭環境や困りを抱えた生徒に対する支援のあり方を考え、校内の取組だけでなく、外部機関と連携して行くことが大切だと思う。
- 児童・生徒の様子は、そのまま現代社会や家庭環境から大きな影響を受けており、支援施設も学校も取り組むべき課題は変わらないと感じました。人とのかかわりが不足しているからこそ子どもに表出していると思うので、児童生徒に日々付き添い教育活動する先生方のご苦勞もよくわかりました。チームで組織で連携して取り組むことを再確認できました。
- 二豊学園ならではのやりがいと難しさを感じました。多くの人の支えや連携の重要性を再認識しました。
- 特に大分西中学校の戸上先生のご提言は、県立の二豊学園と市立の分校との連携のあり方について参考になることがたくさんありました。ありがとうございました。
- 日田・高瀬小の取り組みは九州大会でも発表を聞かせてもらいました。地域との連絡調整をすべて教頭が担っており、今後の改善は九州大会でも話題になっていました。今後も続けていくのであれば、行事ごとの担当（学年担任）を決め、最低限その行事は担任が協議等も担当することで連絡調整も1段階で済み、より意思疎通ができるのではないかと思います。
- 業務多々の中ご提案ありがとうございました。
- 学校運営の参考になりました。
- 今年度から教頭として勤務しているので、どちらの提言も良い勉強になった。
- 各学校、教頭の取組が参考になりました。
- 地域連携ガイドブックは参考にしたい。管理職の働き方改革は今後の課題です。

第5 A分科会 教職員の専門性に関する課題

提案主題 より豊かな教育の推進に向け組織的取組をどのように進めるか
サブテーマ ～校内研修を核にしたOJT「レベルアップ講座」で、教員の資質・能力の向上～
協議の柱 教職員一人一人の特性と力量を見極めながら、教職員がもっている力を最大限に発揮できるようにするために、教頭として、目標達成マネジメントを踏まえながら、「ひと」、「もの」、「時間」をいかに効果的にマネジメントしていくか。

提言者 大分市立津留小学校 教頭 坂本 浩二

提案主題 教職員の資質・能力の向上を図るために組織としていかに取り組むか
協議の柱 教頭として、主に若手教員を中心とした一人一人の特性、資質、能力に応じた学校組織の体制づくりをいかに進めていくか。

提言者 前豊後高田市立都甲中学校 教頭 佐伯 修

1 感想

- 津留小のレベルアップ講座が参考になりました。若い教員が増えているのでこういう機会を設けることで相談しやすい雰囲気ができたり、他学年の先生方と交流ができたりするのでとても良いと思います。
- どの学校も、20代、経験3年未満の教職員が増え、人材育成の必要性を感じている。また、人材育成のための、人材や時間の確保の難しさも感じている。その中で、レベルアップ講座を行うことや、指導力向上のために、提案授業や授業評価による励ましなどに取り組んだ坂本先生、佐伯先生には、頭が下がる思いです。人材育成のためには、対話が必要であり、その中で学んだことをどのように、若手が実践に繋げていくかが大切だと感じました。教頭として、積極的に声掛けをし、すべての教職員の資質向上に取り組んでいきたいと思っています。
- 人材育成をどのようにすすめるかは、どの学校でも課題であると思う。授業力向上を重視したOJTや生徒指導に関わるケース会議など経験を積ませることの大切さを感じた。
- 短時間でも、若手教職員の資質向上に寄与する活動を仕組んでいくことが大切で、そのマネジメントを積極的に行いたい。
- 教職経験15年以上の教師を「何か学校運営に寄与したい」という気持ちを上手に活用した取組。ベテランと言われる15年以上の教師の自己肯定感・有用感も高めるととても良い取組。
- 2本ともに、教職員一人一人の特性、資質能力に応じた専門性向上の取組を、教頭が一人一人を大切にしながら、教職員が主体的に自己研鑽し、互いに学びあい高めあう風土を構築されており参考になった。

- 校内で人材育成のための研修（提言では「レベルアップ講座」）を積極的に行っていかなければならないと強く感じました。校内研修で兼ねる意識でいたのですが、やはりそれぞれがより主体的に、コンパクトに進めていく良さがあると思いました。賛同者を得ていくことも大切だろうと思いましたので、校内でも地道にやっっていこうと思います。
- レベルアップ講座を15年以上の教職経験がある者全員が受け持ち、1部の人に負担が偏った研修とならず、職場を上げての取組になっていてとても参考になりました。
- 小規模校において限られた人材しかない場合、役割を決めてOJTすることは難しいと思いますが、全職員で全校生徒と関わりを持つことができるので共通の話題で研修等が行えるのが利点であると考えます。
- 若手教員の「具体的な困り」に焦点化して講座を開講したことが参考になりました。
- 教頭として、どのように校内研修に関わっていけば良いかなどの参考になりました。
- 教職員の資質向上のための取組の具体的なことが参加になりました。
- 管理職のリーダーシップと教頭の進捗状況管理の重要性を感じた。
- 人材育成は、どこの学校においても今後考えていかなければならない課題ではあるが、組織的に取り組む面と、個人的なつながりで取り組む面があると思う。報告のように外部との連携・協力によりシステムを作り、活用していくことも大切だが、個人的なつながり（仲間意識や信頼、尊敬など）を醸成していくことも大切で、これらは学校が変わってもつながっていくものとして機械的なシステムとしてのOJTではなく、より若手教員の育成等には大切な要素だと個人的に考え、実践していきたいと思う。
- 多くの方が毎年退職していく中で、若手教員へのOJTはこれから特に必要なことで、その取組を計画的に進めていることはとても素晴らしいと感じました。また、学級担任と専門スタッフが連携した協働的な取組も素晴らしいと思いました。
- 教職員の資質能力を向上させていく取組は教頭の重要な役割の1つだと思います。教職員への直接指導や互いに教え合ったり、協働していく中で若手教員が成長している様子が素晴らしいと感じました。
- OJTを組織化して、機能している。
- 教頭として、若手をどのように指導していくかの方策について参考になった。
- 学校は協働の仕事だと実感しています。
- それぞれの発表の人材育成の取組について、とても参考になりました。
- 様々な教育課題についての対応など参考になりました。
- お疲れ様です。ありがとうございました。

第5 B分科会 教職員の専門性に関する課題

提案主題 教職員の専門性って何か

サブテーマ ～教職員としてのやりがい、働き甲斐を実感できる職場づくりを目指した教頭の関わり方～

協議の柱 (1)教職員の専門性とは何か具体的に教頭としてどのように関われば、育成していただけるのか。
(2)教頭の専門性とは何か様々なマネジメント等、働き甲斐に向けて教頭としてどのように関わっていくのか。

提言者 宇佐市立院内北部小学校 教頭 矢野 健

提案主題 教職員の、資質・能力の向上を図るための組織的な取組について

協議の柱 教頭として行うべきマネジメントや指導、また、その方法はどうあるべきか。

提言者 大分市立判田中学校 教頭 内山 靖彦

1 感想

- レポート本当にお疲れ様でした。参考になった点は、マネジメントの箇所です。
- 学校の重点目標達成のための組織作りとその組織内での役割分担、短期または年度を跨いだPDCAによる検証と数値や取組内容の見直し、情報共有と共通理解による協働。これらのことを教頭として学校マネジメントに活かしていきたいと思いました。
- 働き方改革を推進する上で、ベテランと若手を問わず、教師としての働き甲斐ややりがいを実感できる組織作り、学校経営について参考になることが多かったです。
- 専門性を発揮できることは、教職員の自己肯定感高めることであり、仕事を続けて行くモチベーションとなる
- 同じ方向にベクトルを合わせるためにプロジェクトチームを3つ立ち上げ、さらにその中を3つのチームにし、全部で9つのチームに細分化している取組が参考になった。また、プロジェクト内のチームは教職員の取り組みたい分野で選んでもらうところも良かった。自分たちの目標が小さく分けることでより焦点化、そして、やりたい分野の取り組みをするので意欲化の2つが促進されるのではと感じた。
- 「心の働き方改革」という考え方に共感した
- 今回レポート作成の機会を頂き、改めて教職員の専門性について考え直す中で、自分自身の今までの歩み、教頭としての関わり「やりがい」という視点で見直すことができました。また、事前のうち合わせで中学校の先生のレポートを聞かせて頂き、組織とチームという視点の大切さを改めて感じることができました。1つ残念だったのは、レポートを通して様々な先生方の生の声を聴けなかったことです。
- 教職員の専門性に関する課題についての2つの提言は、とても参考になった。教職員の専門性を育成するために教頭としてどのように関われば良いか、自分なりに考える大きなヒントとなった。また、教頭として行うべきマネジメントや指導がどうあるべきかも少し見えてきた。

○提言の中の「教頭の専門性」という言葉及び「教頭として大切にしていきたい思い」というところについて考えさせられました。日々の業務に追われる中であっても、このような視点は欠かさず、また自分なりに持つておかないといけないと改めて思いました。提言者のお話、分科会参加者のお話もぜひ聞いてみたかったな、と思います。

○教頭としていろいろと考えないといけないと思いました。

○宇佐市立院内北部小学校 矢野 健教頭のレポートについて…この職場でよかった、と思える学校づくり、働きがいのある職場づくりについて研究されていた。そのために、相手の思いを聴くことや自分の経験や思いを伝えること、そして共にやってみることを大切に教頭として取り組まれている。私は矢野先生のように、『思いを聴くこと』について今後力を入れて取り組んでいこうと思った。どこの学校も人手不足でゆっくりと話したり、聞いたりすることが困難ではないかと思う。だからこそ、相手の思いを聴く姿勢を大切に、少ない時間の中で思いを聴き取り同僚性を深めることが働きがいのある職場への第1歩になる。そういう学びを得たレポートであった。

大分市立判田中学校 内山靖彦 教頭のレポートについて…教職員の資質向上のための取組を研究されていた。判田中学校のこれまでの取組を継承する中、敬愛、自主、健康のプロジェクトチームを立ち上げ、さらにそれぞれを3つのチームに編成、合計9チームで研究を推進し、成果を上げていた。中でも、小グループで取り組むことにより、必然的に教職員の協働体制、相互作用が働き、同じベクトルでの教育活動の実践につながった成果は非常に価値があると感じた。どの学校も分掌により研究のグループ分けが行われているのではないかと思うが、同じベクトルでという視点では本校は課題が残る。本研究を参考に、同じベクトルを向く教職員集団となるよう努めていきたい。

○これからも教職員の働きがいのある職場づくりに努めていきたい。

○働きがいのある職場づくりを行う中で、教頭として何ができるか、何をすると良いのか、参考になった。

○矢野先生が教頭として、どんな意識で仕事をしているのかがわかり、私自身はどうだろうと振り返るきっかけとなりました。私は日頃、人材育成を大事に仕事をしていることに気づくことができました。

○教頭としての思いがとても伝わった

○教職員の専門性を高めるために、教頭が主任等とどう関わるか具体的な事例があり、参考になった。

○若い職員が増えている中、人材育成と働きやすい職場づくり、働き甲斐をどうしていくか考えさせられた。

○みなさん、どこも大変です。1人職種の現場では相談できる人が欲しいです。

○自分の拙いレポート発表を覚悟していましたが、せっかくならたくさんご指摘いただき勉強したかったです。

○司会者として事前打ち合わせを行い、その時にとっても良い話がありました。その分中止は残念でしたが仕方ありません。「教頭としての専門性」はこれからも考え続けるべきテーマだと考えます。

あ と が き

今年度は、第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の1年次として、さらに令和7年度の九公教大分大会に向けてもスタートの年となりました。

また、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけも5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」へと移行し、徐々に社会も正常化に向けて動いている中、県大会としては4年ぶりの参集型開催ということで臼杵市の教頭会の皆様を始め、提言者の方等多くの方に準備をしていただいております。しかしながら、台風の影響で参集型での開催ができませんでした。長い時間をかけ準備を進めていただいていたのに残念でなりません。

記念講演については動画配信、分科会提言については誌面開催となりましたが、提言には、社会に開かれた学校教育の創造、働き方改革に向けた業務改善、後進や、若手教員の育成といった今日の課題の解決へと向けた貴重な取組がまとめられていました。きっと各会員の今後の実践の参考になったことと思います。また、講演ではアフリカンサファリの神田岳委園長を講師に迎え、「どうぶつと共に生きる」という演題のもとお話いただきました。さまざまな動物や職員との関わり方や、園の経営のことなどのお話は、我々の取組に対しても通じる部分があり、貴重な御示唆をいただけたと思っております。

来年度は第13期全国共通研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」キーワード「自立・協働・創造」のもと、継続して研究に取り組んでいくこととなります。急速な時代の変化の中、子どもたちに時代の変化に的確に対応する「生きる力」を身につけさせていくとともに、未来を切り拓くための資質・能力を育むことが必要です。そのためにも、私たち副校長・教頭は今後も研修を通して共に実践力を高めていきたいと思います。

最後に、大会開催にあたり多大な御指導・御支援をいただきました大分県教育委員会、大分県小学校長会、大分県中学校長会に厚くお礼を申し上げますとともに、大会成功に向け御尽力いただいた臼杵市教頭会の皆様に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

大分県公立学校教頭会

研究部長 中原 健 雄

丹生島城・亀城とも呼ばれていた白杵城の城跡
(県指定史跡) である。

白杵城は、戦国時代、キリシタン大名として有名な大友宗麟の居城であった。現在は、桜の名所としても有名である。